防災関連発言部分　抜き出し

【笹岡委員】　　どこまでできるかわかりませんが、我孫子市ですと保育園型福祉避難所というのは妊婦さんも受け入れておりますので、妊婦さんは一体どこに行ったらいいのだろうというのも思っておりますので、検討していただきたいと思います。

この間見ていましても、高齢の方の避難方法というのは地域が一体となってかなり検討されているところではありますが、社会的弱者である乳幼児連れ、また妊婦さんという方の避難の仕方がいまいち見えてこないもので、そこのところをぜひ考えていただきたいと思います。

　１点提案なのですけれども、液体ミルクの備蓄を提案させていただきたいと思います。小池百合子新都知事も、生産ライン確保を含めた検討に入っておるところですが、震災時、阪神・淡路のときから、やはりおなかをすかせた赤ちゃんを救ったのは液体ミルクだと言われております。

今粉ミルクのことがお話にありましたが、つけ置き消毒とか、あとお湯が必要になってきますし、なかなか難しいと。赤ちゃんの分まで確保するのが難しいと、つけ置き消毒もできないといったことがありまして、海外から、阪神・淡路のころから熊本まで液体ミルクの提供があったことでかなり救われたというデータがありますので、今後は液体ミルクの備蓄に対しても、備蓄もしくは災害時の要求、それもかなり必要になってくると思うのですけれども、いかがでしょうか。

【中村防災課長】　　妊婦または乳幼児連れの方の避難場所としましては、基本的に想定しております現在では、おもいやりルーム、学校です。またはコミュニティセンターの中のおもいやりルーム等々を想定しております。また液体ミルクの件でございますけれども、備蓄の場所等いろいろございますので、今後研究していきたいと思っております。

【笹岡委員】　　液体ミルクは今ちょうど、オンタイムでかなり話題になっておりますので、やはり粉ミルクを、お湯にする手段がないときに、母親が母乳で育てたとしても精神的ショックで出なくなるといったことはかなりあったみたいなので、液体ミルクについては国内でまだ販売しておりませんので、アメリカの友好都市とかとの連携。国内は友好都市とかなり連携して、災害時に一緒になってネットワークでやっていったみたいですけれども、そういったこともぜひ考えていただきたいのですけれども、いかがでしょうか。また各家庭、液体ミルクの備蓄の啓発についてもぜひやっていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

　もう１点は、そういった乳幼児連れの防災なのですが、こういった「被災ママ812人が作った子連れ防災実践ノート」というのもあります。これを自治体がつくれというのはまた負担ですから、こういったもの、本当に実際被災されたお母さんたちがつくったということで、かなりお母さんの間では話題になっておりますが、こういったこともぜひ啓発活動等もしていただいて、乳幼児連れが速やかに避難できるように、また安心してできるような対策をもう少しやっていっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

　もう１点、最後に、災害用トイレについて伺いたいと思います。何度か私は言っているのですけれども、汚物流動口の汚物ガイド、ビニールです。あそこの衛生面が気になっておりますので、そこのビニールの取り外し、交換等の備蓄についてやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【中村防災課長】　　トイレの導入口のビニールの件につきましては、今後、交換等、できるかどうか検討させていただきたいと思っております。それから、子連れ防災ノートでございますでしょうか。こういったものについても今後研究させていただきたいと思っております。

　液体ミルク等につきましても、今現在ちょっとこちらで手持ちの資料がございませんが、今後研究させていただきたいと思います。

　以上です。